

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会
放射性廃棄物ワーキンググループ（第23回会合）

日時 平成27年11月25日（水）13：00～14：55

場所 経済産業省 本館17階 第1特別会議室

○小林放射性廃棄物対策課長

定刻になりました。ただいまから、総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 第23回放射性廃棄物ワーキンググループを開催いたします。

本日は、ご多忙のところ多数の委員の方にご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

きょうの委員の出席状況でございますけれども、ご都合により2人の方、寿楽委員と徳永委員がご欠席でございます。

また、オブザーバーでございますけれども、NUMOから近藤理事長及び西塔専務理事、電気事業連合会から中井最終処分推進本部長代理にご参加をいただきます。よろしくお願いたします。

続きまして、お配りした資料の確認をさせていただきたいと思ひます。

お手元ごらんください。議事次第、委員名簿、資料1として資源エネルギー庁の提出資料、資料2としてNUMOの提出資料、加えて参考資料1、10月のシンポジウムで使用された説明資料をそれぞれ配付しております。また、席上のみでございますけれども、昨年のこちらのワーキングの中間取りまとめの白表紙も配付をさせていただきます。過不足ございましたら、事務局のほうまでお申しつけいただければと思ひます。よろしいでしょうか。

それでは早速、増田委員長に以後の議事進行をお願いしたいと思ひます。

よろしくお願いたします。

○増田委員長

それでは、お手元の議事次第に従って議事を進めていきますが、本日の議題は、「基本方針改定後の対話活動等の取組状況と今後の方向性について」、この件について議題といたしたいと思ひます。

終了予定時刻3時としてありますので、ご協力どうぞよろしくお願いたします。

それでは早速、議事の内容に入りますが、先月、10月でありますけれども、「国民対話月間」として、政府とそれからNUMOで、シンポジウムや各種対話活動ということで活動を全国で実

施したところであります。本日は、まず基本方針の策定後これまでに行ってまいりました対話活動等の取組状況、これについて初めに事務局から報告をしていただきたいと思います。そして今後の取り組みの方向性について議論をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

それでは、事務局のほうから、資料の1になりますね、よろしくお願いします。

○小林放射性廃棄物対策課長

早速ご説明をさせていただきます。資料1、資源エネルギー庁配付資料をごらんください。

1ページ目でございます。今、委員長からもお話ございましたが、ことしの5月に基本方針を改定以降、さまざまな対話活動、広聴・広報活動というものをどのように進めてきたかということの振り返りでございます。

5月22日に基本方針を改定して以降、5月、6月と全国地域ブロックごとにシンポジウムを開催させていただきました。また並行して、その内容について自治体連絡会を開催したということもございます。そちらの結果につきましては、このワーキンググループで7月に一度ご議論をいただいたところでございます。

また、先般9月にこのワーキングを開催した際にも、技術ワーキングからの報告と合わせまして、次の「国民対話月間」にどのような内容、もしくは方針で臨んでいったらいいかということもあわせてご議論をいただいたということでございます。

右の緑の四角の中に、その際のポイントというものを書いてございます。たくさんご意見を頂戴したわけでございますので、そのうちの一部ということになりますけれども、特に強調してご意見を頂戴したところ、最たるものは、意見を聞くという姿勢、それからそれを次に生かしていくという一種のサイクルみたいなものをきちんと意識して進めていくということが大事だということ、複数の委員の皆様からご意見頂戴したと認識をしてございます。

また、シンポジウムそのもののリーチが届く範囲、届かない範囲というものを意識して、きちっと手を打っていくことが大事だというようなご議論もされたということだったと思います。

それを踏まえて10月に実施してきた結果というものをきょうご紹介させていただき、その後、今後、私ども資源エネルギー庁なり、NUMOなり、こうした取り組みを継続していく上でどうしたことに留意をしていくべきかと。もしくは今の国民理解、地域理解というふうに申し上げてきた点、それぞれどのようにごらんになられてご評価されるかということをご意見頂戴したいということが今日の趣旨でございます。

ページをめくっていただきまして2ページ、対話月間で行ってきたことを列挙してございます。シンポジウムのほか、少人数のワークショップ、それからアンケート型での提案募集、その他、NUMOの取り組みも重ねてきたということでございます。詳細は後ろのほうで触れたいと

思います。

3ページに進んでいただきたいと思います。シンポジウムの振り返りでございます。

今回10月、また改めまして全国ブロックごと9カ所でシンポジウムを開催してまいりました。そのテーマ設定につきましては、前回もご議論いただいたとおり、5月、6月の最も関心が高かったテーマということで、処分地の適性の考え方及び段階的な選定の進め方ということを中心テーマにしたわけでございます。

その中では、こちらでも議論をしました技術ワーキンググループでの検討状況というのものも、あわせて説明をさせていただいたということでありまして、その結果のみならず、どういう考え方、手順でそういう結論に至っているのかということ、時間をかけて説明させていただいたということでございます。

それから、今は中身についてお話をしましたけれども、ここに書きましたとおり、質疑応答の時間というのもの、限られた時間の中ではございますが工夫をして、たくさんのご意見を頂戴できるようにというようなことで進めてきたところでございます。

ちょっとページをめくっていただきまして、4ページに若干数字を並べてございます。

左のほうに開催箇所及び開催日程、それから来場者、右のほうに参加者からのアンケート結果ということを整理してございます。

こちらを見ていただきますと、右のほう、第1弾と書いています5月、6月と、第2弾10月、少し赤で囲ったところを見ていただければと思います。おおむね参加者数は、丸めていけば同じぐらいでございますけれども、幾つか我々意識して取り組んできたことがございます。特に男性、特に40代以上の方が多いという状況、これを、より女性や若年層にも幅を広げることができないかということに、取り組んだ結果、この数字をどう評価するか、まさに皆様からご意見をいただきたいと思っておりますけれども、正直、横ばいに近いところかなと思っております。

それから下のほう、満足度、理解度、わかりやすさと、こういったところも前回と同様の設問でご質問をしているところでございます。4段階評価でございますので、上位2つというものをとった数字を見ていただきますと、これも前回の数字と顕著な差があるということではないかなと思っておりますが、2つの項目をとりますと、主催側があれするのも恐縮ですけれども、微増というような評価はできるのかなと。特にわかりやすさのところは、コンパクトにしたことが功を奏したのかもしれませんが、そのようなアンケート結果になっていると。これはファクトのご紹介でございます。

ちょっと前に戻っていただきまして、3ページの右側でございますけれども、アンケート結果としてはそのようなことだったということでございます。

その上で幾つか書いてございます。科学的有望地の検討の方向性、それから処分地選定上の位置づけ。つまりこれは段階的調査の前にやるものであるということであるとか、有望地というものを何かピンポイントで示すようなものではなく、適性の低いところ、あるところ、高いところ、それぞれ一定の広がりがあるようなものを一つの成果物として想定しているんだというようなこと、そうしたことについての一定の理解の広がり。

それから、国による押しつけということ。これが6月ごろにはさまざまな地域、もしくはメディアでの主たる反応として、懸念として示されていたところだと思いますけれども、そうしたことについての声というものは相対的に小さくなった。シンポジウムのその場でもそうした声が聞かれるということ。もしくはその後の事後報道でもそうしたことについての顕著な反応というものになってきたのかなというふうに思っているところでございます。

他方で、来場者のご意見であるとか、アンケート結果等を拝見しますと、次のところですが、特に天然現象、これは例えば地震だとか、火山事象だとか、そういったことを指してございますけれども、そうした影響、それに伴う長期の安定性といったことに対する不安感というものも引き続き広く存在するというふうに見ているところでございます。

また、これは特にその場でのご意見で多く寄せられたところとしては、人間管理から離すというこの地層処分、そもそものコンセプトについて、やはり目の届かないところに持っていくということが不安だ。もしくは、言い方を変えれば、人によっては無責任だというようなご意見も頂戴したところでございます。

もしくは、同じ話でございますけれども、現世代の責任でということですが、地下に埋めるということよりも、よりよい方法というものを見出すということをもっと追及できないか。目に見えるところでずっと難しくても管理し続けるべきじゃないかといったようなご意見もいただいたということで、この基本的な考え方のところの共有、まだ改善の余地があるということではないかと考えております。

また、地層処分の話以外にも、原子力の利用、それから核燃料サイクル政策、そうしたものに関する意見というのも多く表明されるということがあったということで、ご紹介をさせていただきます。

ちなみに参考資料の1として、当日のシンポジウムの配付資料をお配りしてございます。

大部なものですので、全体をご紹介するのは割愛しますが、目次を見ていただきますと、基本的なことのご紹介に加えまして、19ページ以降、処分地の適性の考え方というところですね。地下深部の特徴、19ページから20、21とめくっていただきますと、地下深部にどうこうを期待して地層処分というものが考えられているのかということ。

それから、特に適性が低い場所というものをどういうふうにするのかということで、26ページ以降になりますが、処分場に適さない場所というのはどういうところかと。例えば天然現象の影響を強く受けるようなところというようなものとして、どういうものが考えられているのか。

それから30ページ以降は、処分場に適さない、そうした場所はどのように避けることができるというふうに考えているのかというようなこと。

こうしたことを主にNUMOのほうから説明をいただいたということでございます。委員の皆様ご案内のとおり、ここの内容の議論というのは、別途の技術ワーキングのほうで議論されてきたことを下敷きにしなが、ご紹介をしてきているということでございます。

それから少し飛ばして恐縮ですけれども、47ページ以降、処分地選定と科学的有望地の位置づけということでございます。この点はまさに前回のこのワーキングでもご議論をさせていただいたところでございます。どのような伝え方をすることが、今の国民関心、意見に対する適切なアプローチかということでご議論をいただきました。

具体的には、例えば51ページ、それから52ページ、53ページ、ここら辺が前回でも案をこちらのほうにご紹介をさせていただき、ご意見も頂戴したところでございますけれども、おかげさまでいただいたご意見を反映した形で、私どものほうからご来場者の方にご説明をすることができまして、先ほどの振り返りのおり、ここに伝えなかったメッセージというものについては、時間をかけてご説明をすることができたかなというふうに考えているところでございます。

以上、シンポジウムの中身については、当日お忙しい中ご参加いただいた方も多数いらっしゃいますので、実際にどのような印象を持たれたかということは、後ほどご意見頂戴できればと思います。

それから飛ばしまして、6ページのほうに移っていただければと思います。

本体資料の6ページでございますが、シンポジウムに加えまして、少人数のワークショップというものも開催をしております。こちらは9カ所の大型のシンポジウムでは、なかなか2時間なり何なりという時間の限り、もしくは来場者の方の多さというようなものを考えると、きめ細かな議論がどうしても十分でないということから、並行してこうした取り組みをやっていこうということで、7月にもご議論いただいたところでございます。その実践をようやく進めているということでございます。

具体的には、これは資源エネルギー庁の事業として協力団体というものを募集しまして、例えば地域で環境エネルギー問題について普段から市民活動をされている団体であるとか、もしくは学生の団体であるとか、そうしたようなところを主たる対象として念頭に置いているわけですが、そうしたところを募集をし、実際にどのようなテーマを扱うのかと、もしくはどのよ

うな人を講師に呼ぶのかということも含めて、一緒に運営方法から検討してまいりまして、実際に10月から具体的な開催に至っているということでございます。

半日かけて実際進めておりますけれども、できるだけ参加者の方同士の意見交換というものを多めにとるということで、実際20～30人例えば集まっていたかと、5～6人のグループに分かれていただいて、それぞれのご関心は何か、もしくはそれに対するご自身としての解決の方向性というものをどういうふうに考えているのかというようなことを一緒にご議論いただくと。それから、情報が足りないところは、エネ庁なり、学者の方なりから補足していただくということも膝詰めでするというような取り組みを開催させていただいているところでございます。

右側のほうに「振り返り」というふうに書いてございます。まだ開催回数、今日で、まだ4回、5回と限られた実績でございますので、総括をするに至ってございませんけれども、これまでの我々主催側の印象としては、評価としては、やはり一方的な情報提供よりも、ご自身の言葉でグループワークをされるということによって、理解度、満足度というものが高まるというようなことが見てとれるかなということでございます。

他方で、全国シンポのような200人、300人、全体で見ますと数千人規模のような対話、情報提供というようなものとの対比でいきますと、なかなか届き切らないところがありますけれども、実際の参加者の方の関心・意見把握、これを代表例として把握するということには非常に効果的なのではないかと見てるところでございます。こうしたことをどれだけ横展開していくことができるかということが一つの課題であろうかと認識をしております。

次のページに今の具体的な実績というものをまとめてございます。

左の上の真ん中のところだけ見ていただければと思いますけれども、具体的に、では、どういう団体の方たちが来ているんだろうかということを見ていただければと思います。高レベルの放射性廃棄物に特化をして、これまでも自主的な勉強を重ねられているような団体もございますけれども、多くはむしろ地層処分については今回初めて聞いてみたというようなところが多くございまして、それから学生の団体というようなところも幾つか参加をいただいているということでございます。

こちらについては後ほど、この事業そのものには崎田委員のほうにご協力をいただいて実践してございますので、その中身、それからご評価というものを、詳細を補足いただければありがたいと存じます。

6ページの下の方に戻っていただきまして、同時に行ったものとして、我々こうしたシンポジウム、ワークショップへの来場者の方たちに、統一のテーマについて何かご意見ございませんかというようなことで、募集というものをしてみました。これは一種、試行的に実施してみた

ということでございますけれども、若年層、次世代層がどうやったら関心を持ってこの議論に参加をもらえるのか。これが1つ目のテーマでございます。

それから地域の、これは将来、調査なり処分事業に協力いただける地域ということでございますが、地域の持続的な発展を国民全体で支えていくということを実現するためには、どのようなことが重要かというようなテーマについて、聞いたということでございます。

並行してホームページなどでも意見を受け付けたんですけれども、結果としましては、ご来場者からのアンケート回答というものがほとんどになってございますが、そちらの結果というもの、8ページのほうに、参考③というものに、まだ精査が終了してなくて恐縮ですけれども、簡単にまとめさせていただいております。大体300から400ぐらいの数の回答、ご意見というのを頂戴してございます。

1つ目のテーマのほうについては、やはり学校教育が大事じゃないかというご指摘、これが一番いただいておりますけれども、同時に左の下の方、やはりアプローチの方法からよく考えたほうがいいんじゃないかと。特にSNSであるとか、もしくは、例えばですけれども、今まで我々の議論で余り出てこなかったことでいきますと漫画であるとか、ゲームというのはゲーム形式でということだと思っておりますけれども、そうしたようなツールというものもよく考えたらいいんじゃないかというようなご意見も頂戴しているところでございます。

右のほうに目を移していただきますと、テーマの2、地域の持続的な発展ということへの国民のかかわり方です。やはりこの問題の所在、解決の重要性、それが国民全体の利益にかなうといったようなことをしっかりこうしたシンポジウム等々を通じて地道に広げていくということが大事じゃないかと。そういうようなご意見を多数頂戴したということでございます。

同時に、下半分でございますが、具体的にその地域が見つかってからということだと思っておりますけれども、取り組みとしては、財政的・経済的な支援、それから人的交流、その地域と国内外のさまざまな地域との交流、それから、より記憶に残ることであるとか、そういうようなことを意識してやっていったらいいんじゃないかと、そんなようなご意見を頂戴してきたということでございます。

こちらについては、この先こうしたテーマをより深めていくときに、我々の政策のほうにどう生かしていくのかということが非常に大事な点だと思っておりますけれども、精査した上で、この先、ワーキングでこのテーマを扱ったりするときに、より具体的にご紹介ができたらと思っております。

もしくは6ページの下のほうに書いてございますけれども、これはアンケート形式で聞いたということでございますが、少人数ワークショップのような形で幾つかの団体と協力してお話をしたりするときには、基礎的な情報の提供、それからその場での意見交換を含めて、より具体的

な提案というものをいただくようなことができる、そしてそれが有効なのではないかというふう
に考えるとこころでございます。

それから9ページのほうに進んでいただいでよろしいでしょうか。

今、申し上げたこと、これは具体的な中身についてのことで申し上げましたけれども、幾つ
かそのシンポジウム等々で、特に幅広い層や地域へのアプローチということ、どのようなことを
してきたのかということ、若干補足をしてございます。

女性・若年層へのアプローチということでは、今回、案内の周知方法の工夫、これは学生団
体であるとか、もしくは、むしろ教育の提供側のほう、そうしたネットワーク、それから消費者
団体等、複数お声がけをさせていただき、事前周知にご協力をいただいた。

それから開催日時ということ、先ほどご紹介したページに少し時間帯など書いてございま
すけれども、休日だけではなくて、平日の昼間のほうが、場合によっては主婦の方であるとか出
やすい時間じゃないか、もしくは学生なんかもそうじゃないかと、もしくは平日夜間のほうがより
参加が得られるんじゃないかと、そういうような工夫をしてみたということでございます。

それから、シンポジウムには限りがありますので、少人数ワークショップのほうでは、女性
団体、もしくは学生団体といったようなところに、こちらから周知をよりやりまして、先ほどご
紹介したように、幾つかについてはそうしたところとの共同開催というのが実現をしているとい
うことはご紹介をしたとおりでございます。

それから並行しましてNUMOとしては、全国シンポジウムということに加えて、各地域き
め細かな対応ということ、これはNUMOの本来活動につながっていくわけでございますけれど
も、そうしたところにこの半年、意を割いてきたということございまして、私が伺っている限
りにおいては、徐々に実績が広がってきていると言えるのではないかと思います。

こちらについては、後ほどNUMOのほうから具体的な取組状況、それからNUMOとして
の自己評価について説明をいただければというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたい
と思います。

そうしたような状況を踏まえまして、10、11、12、今後の方向性ということを幾つか記載を
してございます。

まず、国民対話の継続ということで、10ページに書いてございますが、この廃棄物に関する
認識、処分の必要性、それから処分地選定をどのように進めようとしているのかという理解につ
いては、半年前と比較しますと徐々に広まってきたと評価できるのではないかと考えてござい
ます。

他方、先ほどもご紹介しました地層処分に関する基本的な考え方、ここはまだ認識は十分に

共有されていないようなところもあり、引き続き、国民理解に向けた対話の継続ということが重要な状況については変わりがないということかと思っております。

特にどのような点について重視するかということを書いておりますけれども、1点目は、先ほど申し上げたとおりでございます。こうしたこと、国際的にも長らく議論がされており、国境を越えて共通の認識というものが形成されてきているところでございますので、1回目、2回目のシンポジウム、対話活動ではそこら辺、十分な発信、共有というものができてございませんけれども、そうしたところは意を割いてやっていくべきところではないかなということが1点目でございます。

2点目は、特に技術ワーキングで議論してきたような内容につきまして、こちらについて、多くの国民の方からしますと、なかなか漠然とした不安というものが拭えないというところがまだあるのではないかなという感想は先ほど申し上げたとおりでございます。こうしたところも、この先、有望地の提示であるとか、具体的な地域活動というようなものを先々にらみますと、必ずや関心が向いてくるころだと思っておりますので、そうしたところについての対話というものを、まだ丁寧にやる必要があるだろうということでございます。

11ページに移っていただきますと、さらにということでございますけど、この先、よく国民のご意見を積極的に聞いた上で判断していくべきであろうということを書いております。

1つ目は、この先、このワーキングでご議論いただくことになってございます社会科学的観点の扱い方ということございまして、この10月のシンポジウム等ではこの論点、ご紹介はしてございますけれども、具体的にはこれからの議論だというふうにお話してきましたところ、十分にこのところについて意見交換をしてきたということではございません。

ただ、シンポジウムでは、この点に触れるようなご意見というのは幾つも頂戴してきているところでございまして、具体的には、すみません、戻っていただくと5ページの下の方から2つ目のまとまりのところを見ていただければと思います。

調査なり、将来的な処分施設というものを地方に押しつけるべきではないと。都市部こそよく考えてほしいというようなご意見、もしくはご発言された方の中には原発の立地地域での保管というのが望ましいのではないかなというようなご意見もありました。それからまた、これは非常にどこに行っても地域住民の方にとっては難しい話なので、人が住んでいないところというものを探せないのかというようなご意見、こういったものをいただいてきているということでございます。

ご発言された方それぞれが社会科学的観点の今後の議論というものをどれだけ意識してご発

言われたかは別としまして、こうしたご意見が、5月、6月、それから10月、シンポジウムの場合だけでも多数頂戴しているということをごさしまして、こうした点は我々の議論を深めた上で、それが国民の方から見てどのように映るかということ、まさに対話型で詰めていくべきであろうと考えるところでございます。

それから、それにも関連してくるところがあるかと思えますけれども、将来的な地域の住民に対して、その他の地域がどのようにかかわっていくべきか。その具体策として地域共生策・地域支援策というのはどうあるべきかといったようなことも、国民全体で議論を深めていくべき点であろうということで提示をさせていただいております。

それから技術ワーキングのほうにつきましては、その下の黒丸のところは今後の進め方というところで書いてございます。この点については杢山委員のほうから後ほどお考えを頂戴できればというふうに思っております。

私のほうでは、杢山委員からもいただいた今後の方向感というもの、こちらのほうに若干書いてございますけれども、10月のシンポジウムでもご紹介をし、この点については一定の共有が図られつつあるというふうに考えますところ、この先、一度整理をしていただいて、関係学会等を通じた専門家への説明、意見照会というものを丁寧に進めていただき、データの精緻化等を図っていくという次の段階に移ることができるのではないかなということでございます。もしくはそれに加えまして、一般的な疑問、懸念等への対応ということにもこれからより充実させていくところがあるということでございます。

下に原子力委員会とのやりとりというものをご紹介してございます。これは原子力委員会のほうから求められまして、今、科学的有望地の検討状況はどのようになっているのかということ報告してほしいというリクエストがありましたので、杢山委員と一緒に技術ワーキンググループの検討成果を持って、先般、訪問をまいりました。その際の幾つかいただいた意見というものをここにご紹介してございます。こちらも杢山委員のほうから後ほど補足いただければと思います。

最後、12ページはアプローチの拡大ということで、若年層・女性層、それからきめ細かな地域対応ということを書いてございます。

先ほどご紹介したところと重なるところがありますので、詳細は省略させていただきますけれども、やはり少人数のワークショップ型でのアプローチというものが、特に対象層を絞って展開しようとするとう有効だということで、今までの資源エネルギー庁でやってきた展開というものを、これからNUMOの地域対応、これとあわせて、地域展開、横展開というものを拡大していくということが大事ではないかと。

それから、多くの方に指摘をいただきました学校教育というもの、これも大事な点でございますけれども、NUMOのほうで取り組みを進めているところございますので、そうしたものの発展形というものを目指していけないかということで書いてございます。こちらNUMOから補足をいただければと思います。

地域対応、一番下に書いてございますところは、これもNUMOの報告の中だと思います。これからより深い関心を持っていただくためには、一番最後でございますけれども、このワーキングでもこれからの議論ですねというふうに整理をしてまいりました地域経済社会影響調査、それから将来的な対話の場、その前段階の学習の機会、それから地域共生策・支援策といったようなものを、これまでは特段、具体性を持ってご紹介をしてきていないところでございますけれども、これから地域に入っていく、主体的な関心を持っていただく上では重要な課題でございますので、こちらのワーキングでも議論を深めていただき、NUMO、そして国としてご提示できるような状況にしていくということが当面の課題ではないかということで書いてございます。

ちょっと時間をとりましたけれども、私から以上でございます。

○増田委員長

それでは今の説明について、NUMOのほうから補足の説明をお願いしたいと思いますので、近藤理事長さん、それから西塔専務理事さん、よろしくをお願いします。

○西塔原子力発電環境整備機構専務理事

それでは資料2に基づきまして、簡単にご説明をさせていただきたいと思います。

1枚おめくりいただいて概況でございます。国から先ほどご説明がありましたけれども、5月、6月、それから10月と、全国レベルのシンポジウムのご紹介がございましたので割愛いたしますが、そうした活動以外にNUMO独自の事業といたしまして、地域に根差した事業に取り組んでいるところでございます。

主として2つあるわけございまして、1つは地域に根差した団体、これは商工会議所等々でございますが、そうした団体にNUMOの職員が出かけて行って行う説明会、意見交換会等が1つございます。

もう一つには、いわゆる学習の場と申しますか、勉強会支援事業を拡充したものに組み込んでおりますので、後ほどまたご説明をさせていただきたいと思っております。

それ以外にもということで、特に夏休みの期間を利用いたしまして、家族向けの関連のイベント等に取り組んでおるところでございます。

また、それ以外にも情報発信の強化という観点から、関係機関と連携いたしまして、まずポータルサイトを開設いたしております。それからメルマガ、それからSNS、これはフェイスブ

ックでございますが、にも取り組んでおりまして、ネットワークの拡大に現在全力で取り組んでいるところでございます。

1枚めくっていただきまして、まずはきめ細かい地域対応の具体的な中身ということでございます。全国レベルのシンポジウムのほかにも、きめ細かい地域、地域の単位で小規模の対話活動を行っておるところでございます。

具体的にはということで、2つあるわけでございますが、1つは、例えば商工会議所の、県のレベルが多いので、会議所の連合会、あるいは商工会連合会といった商工、あるいは経済団関係の団体等にNUMO職員が出向きまして、説明会、意見交換会等を行っております。こうしたものを各地域の電力会社からのサポートも得ながら実施をしているわけでございます。

基本方針の改定以降、現状で、予定を含めまして100を超える説明会、109でございますが、既に実施したのは76、実施済みでございます。何とかそうした地域の団体と継続的に意見交換を行うというネットワークがようやくできつつあるかなという段階かと考えております。

説明会の中身でございますけど、やはりこの地層処分のお話を初めて聞く方がほとんどでございます、そういう意味でNUMOからの基本的な説明といったことが中心的なテーマとなって、内容となっております。

もう一つの枠組みがいわゆる学習の場、勉強会支援事業でございます、従前の枠、9団体が対象になっていたわけでございますが、それを今回、50団体に拡大をします。それから年1回、当初だけ受け付けていたものを、随時受け付けをします。それからメニュー方式にします。それから採択の要件を抜本的に緩やかにするといった改善、新しい枠組みをつくったわけでございますが、現状50の枠に対しまして、申し込みが既に46、支援を決定したものは41でございます、現在、問い合わせがまだ続いておりまして、50を超えた支援ということになりそうでございます。現在その枠の拡大を検討しているところでございます。

応募いただいた団体、どんな団体でしょうかということについては、経済団体のみならず、最初のNUMO職員による説明会、意見交換会はおおむね8割ぐらいが経済関係の団体だったわけでございますが、こちら勉強会支援のほうはさまざま多岐にわたっておりまして、教育関係の団体、あるいは女性の団体等々も含めて多岐にわたっております。

今後の取組方針といたしましては、まず体制をしっかりと整えると。中長期的にどのようなスペックの人間がどの程度必要になるのかということとしっかりと計画を立てた上で体制を整えます。その上できめ細かい地域単位での説明会・意見交換会にさらに力を入れて取り組んでいきたいというふうに考えております。また電力事業者との連携も強化を図っていきたく思っております。

それから特に安全性に関する説明のコンテンツ、毎回毎回いろいろと工夫をしながら資料を直しておるわけですが、わかりやすい資料ということで引き続き取り組んでいきたいと思っております。

それから地域共生の具体的な姿、それから国からもございましたが「対話の場」の具体的な設置・運営のあり方の基本設計、それから社会・経済影響調査の具体的な進め方等々について、速やかに検討し、世の中に提示をしていきたいというふうに考えております。

それから学習の機会提供事業につきましても、支援枠の拡大を検討しておりますが、今後より安定的に運営ができるようにということで、新しいスキームの検討を行っていきたいと考えております。

1枚めくっていただきまして、若年層、それから女性層との対話ということでございます。若年層・女性層というのは従来からNUMOの中でも大きなテーマとして取り組んできた、検討してきたわけでございます。

特に若年層について、ある程度取り組みが進んでいるかなと考えておりますが、なかなか女性層というのは難しく、女性層と銘を打った取り組みというのはなかなかできていないわけですが、今、行っておりますこと、取り組みの状況でございますけれども、教育ワークショップ事業というのをまず取り組んでおります。

2012年度からでございますが、本格的には2013年度から取り組んでおるわけございまして、全国10カ所、それぞれその地域、地域でエネルギー教育に関心を持って取り組んでおられる先生方のグループがございまして、そういう方々の支援をさせていただいているところでございまして、具体的な指導案でありますとか、教材でありますとか、ご検討をいただいております。最後には東京にそういう成果を持ち寄っていただいて、研究発表会というのを行っております。

それからその成果については、NUMOのホームページの中で、エネルギー教育支援サイトというページを設けてございまして、具体的な成果について公表させていただいております。実際に学校の授業で32回ほどそういう授業を行っております。その様子についても、可能なものということでございますが、NUMOのホームページで具体的にこんな授業をやったということを紹介させていただいているところでございます。今後はこういう活動についても引き続き取り組みまして、量的な拡大も可能であれば通知をしていきたいと考えております。

もう一つ、若年層対策として、いわゆる模型展示車の運用を行っております。それから地下研究所、JAEAの協力も得まして、その見学会等々を行っておりますところでございます。

巡回展示車につきましては、今年度トータルで30地域、それから50日ということを目指して現在取り組んでおります。来場者は大幅に増加しておるわけでございます。3Dの映像なども中で

放映をしております、そういう意味でわかりやすく、小中学生にわかりやすく広報ができるような施設でございますが、なるべくたくさんの方に体験していただいて理解を深めていただくということが大事かと思っております。

今後の取組方針ということでございますが、引き続き教育関係者向けのワークショップ事業を進めていきたいと。基本的な教材、指導案というものも引き続き開発を進めていきたいと思っております。また、その教育関係者同士のネットワークという中で、そういうものがきちっと共有できるようにしていきたいと考えております。

それから、最後の女性層との対話でございますけれども、なかなか女性層向けというのは難しく、しっかり取り組んでいるか自信がないんですけれども、まずは対話活動に携わる女性職員、これも現在ここ2年ぐらいで対話要員ということで3人の女性職員を採用しております。3人活躍していただいておりますが、今後ともそういう人材をしっかりと採用し、育成していきたいと思っております。と同時に、全国各地の女性団体との関係構築、それから説明会・意見交換会等の開催等を進めていきたいと考えております。

4ページ目以降は参考で、それぞれ今ご説明しました活動につきまして、もう少し詳しい説明なり、データなりを載せてございますが、説明については割愛をさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

○増田委員長

ありがとうございました。

それでは、地層処分技術ワーキングのほうで原子力委員会とのやりとりなどについて、先ほど小林課長のほうからお話がありましたので、朽山委員のからその関係で補足があればお願いをいたしたいと思えます。

○朽山委員

朽山です。どうぞよろしく申し上げます。先ほどの資料1のほうでご説明いただきましたけれども、今回のシンポジウムと、それから原子力委員会への報告をいたしました。

シンポジウムのほうにつきましては、10月のシンポジウムですけれども、資料1の3ページに全体の振り返りということが書いてございますけれども、この中で、技術ワーキングでやった内容を説明するという形で、処分場所に求められる科学的な特性であるとか、段階的な調査、選定の考え方、こういうものについて、エネ庁とか、NUMOのほうから簡単に説明していただいて、この内容というのは技術ワーキングの検討内容に沿って丁寧に説明できていたと思えます。

アンケートの結果として、この3ページの右側に書いてございますように、わかりやすかつ

たという結果が出てございますので、安心したということでございます。来られた方は、ある程度理解して帰っていただいたと思います。

特にこの資料は、地下の深部がもともと持っている固有の性質として、廃棄物を安全に隔離して閉じ込めておけるというそういう性質があるんですよということを説明した資料だったので、皆さんもある程度そういうことについて理解いただけたなと思います。

ところが、いろんなこのシンポジウムの報道のほうを見てみますと、割とその中身は報道していただけなくて、プロセスばかりが報道されているということで、こういう安心した地層処分というのがされるんですよみたいな話というのは余りされていなかったというのが私の感想でございます。

科学的有望地の要件・基準をつくったんですけれども、その要件・基準がどういうものかということについては余り簡単には伝わらないんだなということで、もう少しいろんな工夫をする必要があるのかなと思います。そういう意味では技術ワーキングの検討の成果についても、つくって終わりではなくて、一般の方々にどのように理解していただけるか、そういうことを真剣に考えていく必要があると考えてございます。

そういう意味で、技術ワーキングの今後についてでございますが、これは今の資料の10ページ、11ページに少し書いてございますけれども、実際にはまた会合を開いて委員の合意を得る必要があるんですけれども、私といたしましては年内に検討の成果を整理して、社会科学的観点の検討などをこちらでやっていただいている間に、少なくとも2つの面で足固めをしたいと思っております。

1つは科学界における認識共有です。これは11ページのほうに少し書いていただいているんですが、実際のところは、科学者の中でもいろんな分野の科学が必要になるんですけれども、地層処分という意味から、その地層処分の中で理解するというような格好で理解していただいている科学者というのは実は少数ではないかと思えます。そういうことございますので、学会などを通じて改めて情報提供を行って、ワーキングの成果についてできるだけ多くの科学者に理解していただいて、必要に応じてブラッシュアップしていただきたいというふうに考えてございます。

こういう内容のことは、その下に原子力委員会のことが書いてございますけれども、データの充実を含めてそうしたことの重要性についてご指摘いただいておりますので、こういうことをやっていきたいということでございます。

それからもう一つは、一般の国民にわかりやすいコンテンツを用意していくということでございます。複雑で多岐にわたる専門分野の知見を統合した科学ですので、その内容について全ての人に理解してもらうということは不可能なんですけれども、科学的有望地が将来提示された場

合に、そのときに地層処分って知らないんだと、何を見ればわかるんだといったときに、そういう人々がすぐに参照できるような資料としてある程度のもを用意しておきたいということがございます。これは実際に事務局とかNUMOに作業していただいて、わかりやすいものを用意できればいいのかなということがございます。

それから、その中で出てきた沿岸海底下の話でございます。これは前回この委員会で報告した際にも質問を幾つかいただきましたが、この話は国民の関心も高いと感じておりますので、現在の知見でどこまでのことが言えるか、どのような研究開発用の課題があるのか、技術ワーキング本体でやるかどうかは別にして整理して示していくことが重要というふうに考えてございます。

以上でございます。

○増田委員長

ありがとうございました。

それでは、先ほど事務局から紹介のあった少人数ワークショップが開催されています。当委員会からは崎田委員がこちらに参画されておられますので、崎田委員から何かご発言ございましたらお願いします。

○崎田委員

ありがとうございます。発言の機会をいただきましてありがとうございます。

資料1の7ページあたりをもとに少しご紹介させていただきたいと思いますが、先ほど小林課長がかなり詳細にご説明いただきましたので、かぶるのは避けたいと思いますが、私は少人数ワークショップの、これは地域、それぞれ開催地域の団体で自分たちがこういう勉強会を開こうという意思のあるところに応募いただくという仕組みを今年度とっていますので、そういう団体を支援させていただくという、応援をさせていただくような形で入らせていただいています。

それで、この開催地をやはり地域の団体に一緒に入らせていただくということは大変重要だと思っているんですが、今後やはりこの問題を自分事として考えていただけるように、各地でこういう勉強会を開催した経験のある方、あるいはそういうのを進行した経験のある方に、多くの方にそういう経験をしていただくというのは今後大変重要なのではないかと考えています。

先ほどお話があったように、7ページの左側の表を見ていただければわかるように、高レベル放射性廃棄物に関心があって応募された団体と、それでグループをつくっておられる方もいらっしゃれば、省エネとか、そういう地域の環境課題、エネルギー課題に関心があって活動しているNPO、あるいは地域づくりに関心がある方、あるいは学生団体とか、非常に多様な方たちが今、応募してきていただき、ただし初めてこのテーマの勉強会をやろうというような方もいらっしゃいますので、そういう方には多様な意見が出るワークショップをきちんと進行していただくため

に少し応援をさせていただいたり、そういう時間をとっています。

具体的にいうと、じゃ、一体このワークショップは何を大事にしているのかと申し上げると、何か一定の結論をこの中から導くということではなく、話し合う場をとにかく持つという、そこを大事にして開催をしていただいています。

その中で非常に大事にしているのが2つありまして、先ほど情報提供に比較してグループワークの満足度が高いというふうにありましたが、できるだけ一方的な政策紹介には終わらせずに、質疑応答とか意見交換をもとにした対話の場にするということをお大事にしております。

そして2点目が、ここの中に余り明確に記載はありませんが、公平性を大事にするということを今回この実施団体にも非常に強く求めております。どういう意味かという、多様なご意見のあるテーマですので、そういう地域の方の率直なご意見を、どのようなご意見でもきちんと発言していただけるような、そういうような場をつくるということをお大事にしています。ですから多様なご意見を、自分とは違うご意見も冷静に聞いていただきながら、社会にあるいろいろなご意見を考え、この問題を自分事として考えていただくきっかけにさせていただくという、そういう場になっています。

そういう中で、この右のほうに参加者の主な意見の例ということで幾つかありますけれども、かなり特徴的なものを出していただいていますけれども、やはり地域の方もこういう話、知らなかった、もっと自分事として考えていきたいという意見が非常に多いということと、あと3つ目に、いいことだけではなく、リスクを丁寧に説明するということが大事だということはかなり皆さんはつきりおっしゃいます。

その次の次の行に学校教育、情報をもっとあったほうが良いということをおかなり強くおっしゃいます。そして最近、科学的な適地の検討ということが情報として出ていますし、情報として提供しますので、今後の将来に関していろいろな意見もいただくことがあります。

最後に書いてありますが、将来新しい技術が開発されたときに選択できるというのではないかと、可逆性、回収可能性に非常に賛同するようなご意見も多いということです。なお、その上、地域の将来の雇用拡大、こういう意見も若い方などからはかなり見られるということです。

評価振り返りのところに3つ書いていただいていますので、ごらんいただければと思いますが、やはり情報提供よりも話し合いということに満足度を高めていただいているということと、やはり地域の団体と連携をするということをおきちんとやっているという点、評価いただいています。この若年層・女性層というふうにありますけれども、実は会合や何かをやると、この問題は割に男の方のほうは技術的な面に関心のある方が多いかもしれませんが、地域は女性も半分おりますので、こういうところが大事だということを書いてありますが、実は女性の方は放射性などには

結構厳しいご意見だったりするので、会合では女性の方、本当に率直な意見交換ができていて、そういう意味で女性の方、あるいは学生さんの素朴な質問とか、そういうことは非常に効果が出ているなというふうに思います。

なお、こういうことをやりながら思っているのは、やはりこういう課題が社会にあるということを知らなかった、もっときちんと情報や学び合いの場をしっかりと継続してほしいという意見が非常に多い。あるいは、この意見はどこの場でもそうなっているというふうに感じます。

なお、先ほど将来に関する意見が出てきたというふうな話がありますが、その中で、先ほど雇用拡大の話をしました。もう一つ、地域の将来を考えると自分たちもその話し合いに参加できるのかという、そういうご意見などもあります。今回、将来的に調査に入ったときには地域対話の場をつくるというようなことも方針に入れていきますので、こういうことがやはり地域の方にとっても関心があるんだということを感じます。

今、幾つか申し上げましたが、最後にこの検討が今後どういう方向に行くのかという、この後に関して少しつながるかと思う情報を一つ申し上げたいのは、5ページを開いていただきたいんですが、先ほど全国シンポジウムでの意見というのがありました。

この下から2つ目のブロックにある、地方に処分場を押しつけるべきではない、都市部こそ考えるべき。あるいは原発の立地地域で保管するのが望ましいのではないかと。あるいはもっとやはり人口の少ないところで探してほしい。両極端のご意見が地域ワークショップのほうでも大変多く、ここがやはり最終的に大きな意見のポイントになってくるのではないかなという感じがしております。

これは私の意見になってしまうかもしれませんが、やはりこういう社会的な要素というのはきちんと考えていくというのは大変重要ですので、きちんと考えていくという時間をとるべきだと思っておりますが、こういう現実に関極端のいろいろなご意見の方が本当に大勢いらっしゃいますので、最後にこれを細部まで決め切るというよりも、何か柔軟性をもって進めていく。そして将来、固有の地域が出てきたときに、しっかりとそういう視点を考えるというようなことでもいいのではないかとこの思いを私自身は持っております。この最後のポイントだけは、今、私の意見ということでは言わせていただきました。

今後に関する意見は、また後ほど言わせていただければ大変ありがたいなというふうに思っております。

○増田委員長

ありがとうございました。

前回の当ワーキングの開催から今回までの間に何があったかということ、10月に行われました

「国民対話月間」、これが行われている。それから今、崎田委員からお話あったように少人数のワークショップが行われた。これがこの間に行われた大きな変化であります。

したがって、実施主体である事務局、あるいはNUMOから説明があったわけですが、この事務局か、NUMOへのご質問、それから今、崎田委員が一番最後におっしゃいましたように、こういったことを踏まえて当ワーキングでの今後の検討に向けてご意見をいただければと、こんなふうに思います。

いつもどおりご発言のある方はネームプレートを立てて、大体3分を目途に発言をお願いしたいんですが、なお、山崎委員と吉田委員には今回実施された対話月間での全国シンポジウムのほうにも登壇者としてご参加をいただいたようでありますので、ご発言のときにそっちのシンポジウムにご登壇いただいたことに対してのご感想等も含めてご発言いただければと思います。よろしくをお願いします。

初めに山崎委員、それから吉田委員ということで順番にお願いしたいと思います。

○山崎委員

山崎でございます。どうもありがとうございます。この10月の全国集会には、第1回目の東京と、それから一番最後の岡山で参加させていただきました。

私の感想としましては、説明、非常に、特に小林さんの説明は大分うまくなりまして、皆さん理解が進んだのではないかという気がいたしました。会場からもたくさん意見が出まして、いろいろな意見を聞くことができ、私としては非常に有益だったと思いました。

ただ、これだけで本当に国民の理解がどんどん進んでいくかというのと、やっぱり少しそうでもないのではないかというふうに考えます。こういう知識を普及させるということは非常に大切なんですけども、理解するということはまた少し違うのではないかという気がいたします。

理解するということは、先ほど崎田先生おっしゃっていましたが、やっぱり自分のこととして、自分の身の上のこととして理解するということが一番大事じゃないかなという気がします。そういうことを国民一人一人が考えていかないと、なかなかこの処分事業は進んでいきません。

そのために何をすればいいのか。これは幾ら廃棄物って、実際、自分から離れているものに対して安全ですとか大丈夫ですとかいってもなかなか進まないのではないかと。それをしないことのほうが本当は危ないことがあるので、それが実は自分の身にかかってくるんだよという、これはエネルギーの問題にまさにかかってくるので、エネルギーからこの原子力へつながっていくプロセスも説明していかないと、なかなか国民が自分のこととして理解をしていただけないのではないかと。今回の対話集会みたいなものも、そういうことが行われているということを今伺い

してちょっと安心したんですけれども、そういうことも含めてぜひ進めていただければいいかなというふうに思います。

以上でございます。

○増田委員長

ありがとうございました。

それでは吉田委員。

○吉田委員

吉田です。私のほうは、シンポジウムについては新潟で参加させていただいて、あとはワークショップといいますか、小グループの方は静岡で参加させていただいたということです。

そこでの感想になりますが、皆さん、地質に関する地域の、どういう地質がいいのかとか、そういったことについての関心は依然高い状況にあります。特にマッピングということが情報として伝わっていますので、マッピング後の具体的かつ地質学的な情報に関しても、今はどちらかという日本全国を対象にした地質条件とか状況を伝えているわけですが、一般の皆さんは、既に自分たちの住んでいる地域の地質状況についての関心に徐々にシフトされているのかなという感じを受けました。

今回、参加したのが新潟と静岡だったのですが、要は、日本全国の状況、火山はいいけど、例えば新潟地域の地質での中身のもっと詳しい情報というのはいつどの段階でわかるのでしょうか、そういうようなご質問とか関心を伺いました。恐らくそれが今後のマッピングの後のいわゆる地域の人たちとのコミュニケーションの情報、ポイントの一つになるんだろうなという気はいたします。それが、今やられている小グループの意見交換といいますか、崎田さんのほうでハンドリングされているような進め方としての一つのあり方になるのかなと思っています。

一方で、なかなか全国規模と小グループのほうをどのように組み合わせていくのかというのは、個人的な意見ですが、ある程度出尽くしているというか、やり方としては飽和状態といえますか、限界に近いのかなというところもあって、その辺はもう少し工夫が、私も考えないといけないですけど、いるのかなというのは思いました。

あと技術的な部分は、朽山委員も言われていましたが、沿岸地域のことの関心も非常にあるなというのを感じました。グループの中に入って、無人島とかもありましたが、沿岸地域というのはやっぱり海水準変動じゃないですけど、陸地になるんだったらその辺も将来は考えるんですかとか、そういったことを一般の方でも知識をもって、徐々に考えられており、そういう部分の情報は早めに整備していく必要があるのかなというのを感じました。

そういうのも含めて、参加者の方も含めてやはり言われていたのは、教育の重要性です。や

っぱり地学については、義務教育で中学校、中学校ぐらいでそれがストップしちゃっているんですね、やっぱりというような、そこら辺は何とか子供たちにもどうやったらそういうのがわかるように勉強させるというか、するようにしたらいいんでしょうね、ということに関心を寄せられる聞かれるご婦人の方もおられましたので、そういうのはこちらの教育側として文科省などとも相談しつつ、アプローチするというのもあるのかなという気もちょっとした次第です。

それがざっくりばらんな感想ですけど、私からは以上です。

○増田委員長

ありがとうございました。

ほかにいかがでございますか。

それでは高橋委員、お願いします。

○高橋委員

朽山先生も、吉田先生も、今ちょっとご言及いただきましたが、海底の話、ちょっと前回申し上げて、朽山先生から今後、素人にもわかりやすく疑問点をぜひご説明いただくようお願いするところをお考えいただくということをご発言いただいて、これはお礼を申し上げたいと思います。

その後、事務局からご説明いただいて、どうもやっぱり海底域のほうが地下水の挙動が安定していて捨てがたいということで、今回の説明図にも41のほうに、説明資料の、海底域の話が具体的に出ています。この辺は当然捨てがたいので、こういうご説明ありかなというので納得したわけですが。

ただやっぱり素人的にはいろいろ疑問もまだ残るところで、例えば坑道は絶対に長くなるので、アプローチが、直下につくるよりかは当然、真下に掘って、真横に掘るか、斜めに掘るかわかりませんが、坑道の長さは絶対長くなるはずなのでリスク要因にはなるだろうと。

さらに活断層の影響の避け方についても35ページにあります。海上の音波探査の精度と、陸上の反射法探査の精度、私、素人的には絶対音波探査のほうが粗いなという気がしますし、さらに今回の原発の議論でも、最終的に活断層の直下につくらないというのを確認するにはトレンチ探査をするというのがかなり決め手になっているんですが、じゃ、一体、海底でトレンチ探査できるのかどうかとか、素人的にはいろんな疑問が出てくるのでございますので、ぜひその辺、ある時期にご説明いただければありがたいなというふうに思っているのが一つお願いでございます。

それから、NUMOにちょっとご説明を頂戴したいんですが、今後の取り組みの方向ということで、参考のところ、参考の③、④、⑤と、これが20回会合からの抜粋というふうになって

いるんですが、少なくとも20回会合で議論しましたし、その後、ご説明でいろんな方にお知恵を出していただいて、多分知見が進展しているんじゃないかと思うんですが、一体どの程度の遅延があったのかということ、参考というふうに出されますとここでとまっているんじゃないかという誤解を受けますので、その辺ちょっと追加的な説明をいただきたいと思います。

○増田委員長

ありがとうございます。

NUMOのほうの回答は、もう少し各委員の皆さん方の意見がまとまってからということにしたいと思いますので、後ほどちょっと準備しておいてください。

ほかにご意見ございますか。

朽山委員どうぞ。

朽山委員どうぞ。

○朽山委員

先ほど申し上げたので、ちょっと補足になるかもしれないんですが、いろんなこれから社会的条件の話とかも入ってくるんですが、シンポジウムでもそう感じたんですけども、もともとマッピングという言葉の中に含まれているような話で、我々は科学的有望地、なぜここが適していると考えたのかということを示していこうという意味で、地層処分の中身を知っていただきたいという意味でこの整理を始めたんですけども、どうしても、どうして適地かというよりは、どこが適地かという話にいつてしまうと。

なかなか難しいんですけども、最終的に基本方針として国が申し入れていくということをやったという意味では、事業と一緒にやっていただきたい、パートナーになっていただきたいと申し入れるわけですので、申し入れるときは当然自分のことをわかってもらっていないと全然申し入れしてもうまくいかないに決まっているわけで、今その申し入れるための準備として自分たちのことをわかっていただこうとしている、そういう段階だと思うんですね。

その中でいろんな議論をやって、科学的有望地も、地層処分の中身をわかってもらって、これは廃棄物の押しつけ合いの話ではないですよということを知ってもらわないといけないというのが一番大きい話としてあって、先ほど崎田さんの話にもありましたけれども、どうしても押しつけ合いとしてみんな捉えて、どこになるんだ、どこになるんだと、そういう話がありますので、マッピングというの、その中に入ってしまうと非常にまずいことになる。どこなんだ、どこなんだということをやってしまうと、もう議論はちゃんと中身に行かないで、変な疑心暗鬼の世界に入ってしまうことがありますので、非常に気をつけないといけない話だと思うんですね。

我々が今やろうとしているのは、やっぱりあくまでも自分たちの事業というの、そういうも

のでなくて、国民の全体のリスクを減らすためにやっているもので、我々、十分安全に事業をやっていますから、どこか一緒にパートナーとなってやっていただきたいということをわかっていただくというのが一番大事な話だと思う。これからいろんな議論をするときも、そのことを忘れないようにしないと、それ非常に難しいんですけども、それで慎重になり過ぎては進まないですし、かといって余り前のめりになるとそういう誤解を受けてなかなかうまくいかないというところが非常に難しいと思います。

最終的な申し入れの段階のまだ前のマッピングの段階ですけども、そのマッピングの段階でもそういうことありますので、いつどういうタイミングで出していくか。それからそういうマッピングならマッピングを出すときに、それを出したときに皆さんがどういう反応をするかということ。恐らくそのときに初めて自分のところが関係あるかもしれないとか、そういうことになるんだと思うんですけども、そうなったときに、その人たちは地層処分って何なんだと調べると思うんですね。

そういうときに近所の人に聞くのか、あるいは何らかの報道とかメディアを通じて知ろうとするのか、専門家に聞こうとするのかと、そういうことがありますので、少なくともそういう人には正しい情報が伝わっていないといけないとか、そういう場所で正しい情報がうまく入るようにはこちらは準備しないといけないというのが大事な話だと思いますね。

今、しばらくこういう議論が続いていますけれども、余り前のめりに、いついつまでにマッピングするんだとか、そういう話にしないで、やはりそういう準備をきちんとしてこれからやっていくんですよと。そのタイミングをはかってマッピングを出すんだということで、あくまでもその地層処分の中身を知っていただいて、廃棄物の押しつけ合いではないですよということを最終的にわかっていただくということが大事なことではないかと思っておりますので、その辺はこれからも気をつけて進めていければなというふうに思います。

○増田委員長

ありがとうございました。

それでは、新野委員、崎田委員、伊藤委員と、こういう順番でお願いします。

○新野委員

ありがとうございます。私は全体のお話からまずさせていただきたいんですが、今、先行しているのが、科学技術のほうで国民に対してのご説明や研究も進んでいますし、報告事項のメインになっているように思います。福島のことがある以後、特になんですが、多分国民の中の関心事の中には、これから取り組もうとしている社会科学的というんでしょうか、そちらも非常に大きな関心があるのではないかと思います。

まず第1番にシンポジウムとかでこの技術のご説明をされた、順番は別に間違っていないでしょうけれども、国民側の理解と、知りたいこと、そして納得いく情報というのはやはり両輪なければ最終的には納得には至らないんだろうと思っています。

この動きの中で、今この議論をまた再燃をさせて前に進めようとするこのワーキングに対してでもあるんだと思うんですが、これまでにされていなかったこと、今までできなかったことをどうして進めるかという、これまでされていなかったことか、これまで以上のことをしなければならぬんだと思うんですが、そこにやはりかなりのウェイトで社会科学的な観点というんですか、こちらの議論と方向性というのが非常に関心が高いものというふうに思っています。シンポジウムとか説明会というのは、それも含めてご説明ができる段階になるまで継続して丁寧に進めていく必要があるんだと思っています。

それが1点と、教育の問題ですけれども、最新はちょっとわからないですが、立地なんかでも、もともと防災の観点も含めて子供たちへの教育というのは、原子力に関してはもう早い段階から必要だというふうに言われてきていたはずなんですね。最近とみに声が大きくなっていて、急速に動きはあるんですが、これが必須にはなっていないように思います。

いろんな冊子が出てきたり、その方向性は高く取り上げられていながら、今、学校や先生とか、学年主任の方たちのお考えの中でどう組み入れられるか、られないかというところで、取り扱われたり落とされたりしているように思います。せっかくいい資料等こういうことが重要だとうたわれながら、なかなかそうならないところにも一緒にアプローチをしていただければと思います。

両方ないと、公平な情報ということに至りませんし、本来は立地ばかりじゃなく、全国に基本的な情報があるべきだと思うんですが、大人に対する情報提供と同じように、それ以上に重要なのは、これから育つ国民である子供たちへの正しい情報提供だろうと思っています。

それと、新潟のほうに私も聞かせていただく側で参加をしてきました。新潟はいろいろな説明会やいろいろな経験をしていまして、少人数ではありましたが、私の驚きは、30代ぐらいの若い男性の方が何人か手を挙げられて質問された中に、ご自分の知識と経験の中で疑問点を述べられて、これはどうなんだろうということを率直にお話しされた若い方たちが数名おられたんですね。とても好感が持てましたし、冷静な発言のスタイルでしたし、会場は少人数でありましたが、質の高い質疑がされていたように思います。

このシンポジウムと少人数のワークショップは当然違うので、効果も違うんですが、どちらが有効かということではなく、全部やるべきなんだろうと思いますし、多分これだけでは足りないだろうと思っています。

ワークショップも初めてされるときにはかなり効果がありますし、評価も高まるんですけど、これを継続していくとまた新たな課題にぶつかるんだと思っています。私の経験では、対話の場が長く続きますと、関与する方たちと、バージョンアップしていく方たちの差がだんだん開いてきますよね。そのときにマンネリ化することで脱落していったり、達成感を感じられなくなっていく人がふえていくことと、逆に同じことを繰り返せば当然もの足りなさがありますし、ステップアップをしていくと新規の人たちがついていけないという、いろんな問題が起きるので、やはり常に対象がどういう人たちなのかというのをワークショップを開く前に精査をされて、いろんなメニューを用意されて、このニーズに的確に対応していけば、継続的な取り組みとしてはかなりの評価を得られるようなレベルに育つのではないかというふうに期待はしています。

以上です。

○増田委員長

ありがとうございました。

それでは次、崎田委員。

○崎田委員

ありがとうございます。先ほど地域のワークショップのお話など申し上げましたが、結局、今、全国でこういうワークショップをみずから企画をしたり、話し合いを仕切ったり、このテーマで実施したことがあるという方が300から400人ぐらい今おられて、そういう方たちにそれぞれの地域に応じてきちんと勉強会、あるいは学び合いができるように支援ができていけばありがたいなというふうに思っています。

なお、先ほど杢山委員がお話をされたときに、マッピングの公表を近い将来か将来考えるときに、どういうタイミングかうまく見計らってというお話をされました。それでふと思ったんですけども、やはりきちんと慎重に進めていくということは大事なんですけども、どういうふうな状況が整えば、この状況あるいは社会環境が整ったならばこのマッピングを公表するのかという、そういうようなところも共有する、あるいはそういうところも大事な課題として認識しておかないと、どういうふうにこれからのいろいろな準備を進めていくのかという、いろいろなお立場の方の取り組み方というのがあるのではないかなというふうに感じました。

実は自治体などでいろんなところに伺うときに、その地域の自治体にご挨拶に以前は行っていましたし、最近、今、エネ庁などがそういう説明会をやっておられるということで、直接はもう伺わなくなりましたが、なかなかやはり自治体の方が、こういうことに関心を持っていると市民の方に思われてしまうと困るので、なかなかこういうことの勉強会もちょっと参加しづらいというような、お願いをしてもそういうご意見の方も多くて、やはりいろんな方にこの情

報をきちんと届けていくということが大事だというふうに思っておりますので、どういう社会状況が整った段階でこういうものを公表していくのかという、やはり少しそういうところも考えておいていただければありがたいなというふうに思いました。

よろしく申し上げます。

○増田委員長

伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員

私からは資料1の11ページの今後の方向性にかかわる点ですけれども、やはり最初の丸にございますとおり、社会科学的観点の扱い方について少し見通しを持っておく必要があると思っています。

ただ、ここの方向性自体には異論はございません。先ほど杢山委員からご説明ありましたとおり、今後、技術ワーキングのほうでさらにいろいろな可能性について検討していただけるということですし、沿岸海底下のお話ですとか、場合によってはほかの地理的条件について、もう少し具体的な絞り込みなり、考え方の提示というのが出るということが期待されておりますので、さらにその上で国民対話によっていろいろな意見が出てくると思います。

その中には、技術的な観点からの検討ですけれども、やはり先ほど崎田委員からご紹介いただきましたとおり、いろいろな場面を想定して社会的な観点と関連するようなご意見というのが恐らく多様に出てくるんだと思います。そうなった段階で、その考え方、恐らくやはり一定の方向に収れんするという事はないので、それを踏まえた上で、我々のワーキングとしても社会科学的な観点というのをより具体的に打ち出していくということが必要なのではないかと思います。

その際には、対話活動を通じて、あるいは少人数ワークショップ等を通じていろいろなご意見が出てくるということをごきちんと踏まえた上で、日本の現在の経済社会の状況ですとか、あるいは将来的な展望というものを見た上での観点を打ち出し方というのが必要になってくると思います。

それから具体的なマッピングというのは、私もどういふふうイメージしたらよいのかというのがなかなか難しいんですが、技術ワーキングの観点からマッピングができることと、さらにその上で社会科学的な観点から絞り込みがなされるというような観点ということからしますと、スケジュールをいつまでにといふよりも、どういふ段取りといひますか、段階を踏んで提示ができるのかということについてのイメージは、我々としても共有しておく必要があるのではないかと考えています。

以上です。

○増田委員長

ありがとうございました。

それでは辰巳委員、お願いします。

○辰巳委員

ありがとうございます。ここのしばらくのご報告お聞きして、少し進んでいるのかなというふうに理解しました。特にやっぱりシンポの質疑の時間を長くお取りになったということに対して私は評価したいなというふうに思っております、もちろん十分かどうかは別にして、やっぱりそういうことで国民の意見を聞くことができるし、恐らく今のところですけども、こういう機会を設けると、参加する人というのは聞いてみたい、あるいは話をしてみたいというか、意見を言ってみたいというふうな人が多分関心があって参加されているんじゃないかというふうに思いますもので、ですからとてもよかったなというふうに思うし、こういう方向性は続けていっていただけるといいなと、質疑の時間をちゃんとゆとりを持つということ。

そういう意味で、先ほどお話があったように、シンポジウムが必ずしも一方的な情報提供になるんじゃないんだということのいい機会なんだということを知っていただけるというふうに思いました。

当然ですけども、今後なんです、今のところまだ何か所かで、本当に国民からするとごくわずかの人のところにしか届いていないわけで、ですからやっぱりもう少し広く国民に届くようなことというのはとても重要だというふうに思うので、たゆまず繰り返していかざるを得ないなというふうに思っております。

初めて聞いたとか、あるいはもちろん知っている人もいるでしょうけれども、初回参加の人に成果は、アンケートの結果なんかを見ても成果があったというふうに思いますけれども、一つは今、言ったように広くやるんですけども、1回来て、もっと深めたいと思う人に何か届くような方法というものも検討できるという、具体的な案が何かあるというわけじゃありませんけれども、もう少し深く知りたいと思うような人との対話、シンポジウムでも何でも形はいいと思うんですけども、そんなこともさらに検討していかなきゃいけないというふうに思いますし、大事なのはそこで出てきた意見がどういうふうに、またこの会でもいいんですけども、反映されて、次回に成果として伝わっていているかということをやったり国民に対して示すことこそが、私たちというか、こういうことを進めていく中ですごく重要で、いわゆる言葉悪いんですけどもガス抜きのために意見を聞いてやるというふうな形に決してならないでほしいなというふうに思っております。

そういう大きな流れ、何回も広くやってそこで聞いてきた意見、国民の意見として聞いてき

たことをまたこちらで検討し合いながら、またそれを見せながら、繰り返し変化を示していくという必要があるというふうに思っております。そんな急に1年や2年でできることではなくて、かなり長期的にこれは捉えていかなきゃいけないとは思いますが、そういうふうなことをきょうお話伺いながら思ったんです。

社会科学的な観点というのは本当に重要な話だというふうに思うんですけども、その検討ももちろんこういう場でやらなきゃいけないのも一つですけども、やっぱりそういうシンボなり、広く国民の声を聞ける場で、今こういうことを話し合っていて、こういう課題が出ているんだとか、そういう状況もオープンにしながら、伺った意見が何か参考になるようなことがあれば、そういう言い方しなきゃいけないのかな、でもやっぱり私たちよりもっといろんな知見を持っている方が大勢いらっしゃるわけで、そういう人の意見もお聞きできるというふうに考えて、半歩進みまた戻り、また半歩進み戻りというふうなところで、特にこの社会的科学的観点というのは反映していくというか、詰めていくべき中身じゃないのかなというふうに思って伺っておりました。

一つだけちょっと私自身が今かかわっているところで、委員会のところでの課題があって、ぜひこれは聞いていただきたいというふうに思っているんですけども、この放射性廃棄物の基本方針のところでも出てきて、今回の皆様のご意見の中にもあったんですけども、現世代の責任という単語ということに関してなんですけれども、その基本方針の話し合いのときにもちょっとは言ったかと、私自身も言ったと思うんですけども、やっぱり多くの市民、国民は、自分が今使っている電気の中身が何かということを知らないままに使ってきた。だから原子力発電所というのはあるのは理解しているけれども、それと今、自分が使っている電気とのつながりというものを余り深く何も考えずに使ってきたわけなんです。だからがゆえに、急にあなたの責任だ、電気を使ってきたみんなの責任だよと言われて、何で私がそんなというふうな格好になって、何も知らされないままに安全であって品質のいい、そういう電気がちゃんと届いているからいいじゃないかという発想というのはやっぱり上からの一方的な押しつけだったような気がするんです。

それで何か言いたいかという、ちょうど自由化が来年度から始まります、各ご家庭の。ですからやっぱり自分が使う、コンセントから来る電気というのは一体どういうふうにつくられていて、だからどういう、例えばCO₂に関しても出ているし、それから放射性廃棄物も出るわけだから、そういうことを知った上でちゃんと選択して欲しいということを国民に伝えていかなきゃいけないというふうに思っております。

そういう過去のことは仕方がないんですけども、これからなので、ぜひぜひ国民にそれを

伝えながら、そうすると、やっぱり電気を選ぶときにいろんなことを考えます、国民というのは、私たちは。だからそういう選択ができる機会なんだから、選択ができるだけの情報開示というのはぜひ国民にとっては必要なのです。

だからそういう意味で、もうちょっと詳しく言うと、電源構成の表示とか、それから環境表示とか、あるいは放射性廃棄物の表示とか、そういうふうなものはヨーロッパでは進められております、国で表示をすることを義務にして。それを日本でもやっぱりやっていくべきだと私は思っているんですけども、いろんな意見がありまして、なかなかその方向に進まないんですね、現状。コンセントから来る電気はみんな同じ電気なのに何で電源構成なんかいるんだって。

それだと今までと全く同じ考えだと私は思うもので、ここで変えていかなきゃいけないというふうに思っております、すみません、余計な話なんですけれども、やっぱりいろんな情報を説明していくという、国民に説明していくという基本のところやっぱりすごく重要な話だというふうに思いますもので、お聞きいただきたいなというふうに思って申し上げました。

○増田委員長

伴委員、お願いします。

○伴委員

ありがとうございます。東京の会場で傍聴に行きました。最初いろんな意見からテーマを絞りましたということで司会の方がテーマ設定をされたんですが、そのときに、どのような意見があったのでその中からという、具体的なその意見の内容をもう少し詳しくあらかじめ伝えておいていただければ、なるほどそういう絞り込みをしたのかというのが一層わかったのではないかと、いう意見が同じように行った人からありましたので、お知らせをします。

それで私の印象としましては、司会の方も会場から出された意見等について公平にまとめていただいておりますし、それに対する回答も非常に丁寧な回答で、非常によくできたというか、よく考えられた全体の運営だったんだなというふうに思いました。

それがこの4ページにいう満足度の高いところとか、わかりやすい内容というような判断につながっていったのかなと思いました。このアスタリスクのところ、無回答の割合を除いたためと書いてあったので、これはひょっとして本当に文字通り受け取っていいのかという若干の疑問を持っております。

もう一つは全体として、今、ちょっと記憶がないんですが、アンケート内容はこれだけだったのかなと感じております。もしほかのこともあれば一通りまとめていただければありがたかったと思っていますが、そのアンケートの項目が記憶の中に出てきておりませんので、間違っていることを言っているかもしれません。

それから、今度は11ページのところで、これはシンポジウムと直接関係ないかもしれませんが、原子力委員会のやりとりの中で、関係機関等から十分なデータを集めることが重要だと言われて今後そうしていきますというような話があったのですが、その十分なデータというのは、科学的有望地を選定するに当たっての十分なデータということではないかと思うのですが、それに対してどういうふうな対応をされていくつもりなのかというのが聞きたいところです。

というのは、この前の委員会で杣山技術ワーキング座長のほうから、回避すべき、回避が好ましい、好ましいというのがあって、それぞれ基準というものがある、さらに全国規模の信頼できるデータというのはどれがあるというのがあって、データがなしというのももちろんありました。そこで、そのデータなしの部分を、これを一生懸命集めていこうとされているのか、それとも既にあるやつをさらに充実しようとしているのか、その辺のところがよく見えなかったので質問です。どういうお考えなのかというのを聞きたい。

それから今後のことについてなんですが、参加されている方の全体の関心度がどれぐらいなのかというのがわからないところもありますので、またこれは的を射ていないのかもしれないのですが、ある程度関心のある人が参加してくださっているとすると、やはりこの2つの委員会は公開でやっているの、そういったことの中身の報告があると一層関心が高まるのかなと思っているのが一つと、もう一つはそういう流れの中でせっかくすごい議論をしている、技術ワーキング等々議論をされているので、ここに示されているこの段階的調査において具体的にどういことを調査しようとして、それぞれの段階でこういった絞り込みをやっていくんだというプロセスの話、そしてそれに適合しないときにはこれは撤退するのかわかりませんが、そういう姿勢ですよ、そういうプロセスとその姿勢の話を出していただくほうがいいのかなと思うんです。

全く初めて来ましたみたいな人については、本当の入り口の話がいいのかもしれませんが、ある程度関心のある人に対しては、今、進行していること等々を知らせていくのがいい、それで意見をもらうというのがより進化していくのではないかと思います。

○増田委員長

ありがとうございました。

一渡り各委員からご意見をいただきましたので、まずNUMOから、特に高橋委員からもその後の改善度合いについて、参考資料についてのご質問等ありましたので、まず初めにその点も含めてNUMOからお答えいただきましょうか。お願いします。

○西塔原子力発電環境整備機構専務理事

参考①から③についての検討状況ということで、失礼、①ではなくて③から⑤ですね、失礼

しました、検討状況ということでございますが、5月から検討が進んでいないということではなくて、しっかりと中で議論をしております。

若干補足をいたしますと、まず地域共生のところは、これは前回5月にはこの事業による経済的な波及効果ということで、過去計算をした数字でありますとか、あるいは地域共生ということで、地元発注の大きさでありますとか、雇用でありますとか、あるいはそこに書いてあるとおり、プランをつくるとか、あるいはその販売支援、こういった具体的なメニューの一部でありますとか、ご説明させていただいたわけですけど、実はこれは非常に大事なテーマでございますので、昔からいろいろと議論が実は積み重ねられ、検討が行われ、外部の委託調査も含めて積み重ねられてきたところでございます。

そういう意味で、いろんな情報がいろんなファイルの中、あるいは引き出しの中に入っているわけですが、必ずしも今の段階でどういう情報がどういう引き出しに入っているのかというのは、全てがきちんと理解できているかという、正直申し上げてそういう状況ではないので、やっている作業ということでは、きちっと過去やったことをしっかりと一度整理をして、直さないといけないところはもちろん直さないといけませんし、足りないところは補わないといけないんですが、そういう作業を行った上で、やはりこれからの対話活動も地域ということになってきますと、こういう地域共生活動も、今までは余りしっかりと説明はしてこれしていないんですけれども、しっかりと説明をしていかないといけないと思っておりますので、検討を進めているところでございます。そういう意味での検討を進めているところでございます。

社会・経済影響調査でございますが、これもまずNUMOの中で調査に当たっての具体的な項目なり、内容なりというのをあらあら整理をいたしまして、どういう形で例えば分析をするのか、その分析に当たってのデータの所在がどこにあるのか、あるいはそのプロセスですね、どういう形で地域とコミュニケーションを図っていくのかと。対話の場を通じてということが中心になると思いますが、どういう形でプロセスを進めていくのかと、そういうことを、概略、NUMOのほうで検討いたしまして、ペーパーをつくりまして、その肉づけを、これは外部の方の知見も借りながら肉づけをしていきたいということで、現在手続きを進めております。

最終的には3つか4つぐらいの典型的な町なり村なりの姿を想定して、そういう地域でこういうものを行うとしたらこんな姿になるということを、世の中、皆様方に提示をしたいということで検討を進めております。

それから対話の場でございますが、これはNUMOの中でまだ関係部の間で検討を行っているところでございます。どこまでいくかということでございますが、原案をしっかりとつくって、その原案をもとに関係部の間で現在ディスカッションが行われている段階ということでござい

すので、しっかりまとめて、その上でしかるべきタイミングでご説明をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○増田委員長

検討の様子は、またこの場でご紹介いただければというふうに思いますので。

高橋委員。

○高橋委員

感想を申し上げたいと思いますが、特に参考4なんですけど、私は法律屋なので、政治の話は伊藤先生のほうがお詳しいと思うんですけど、やっぱりこれ立地しますと、例えば立地の地域における意見調整とか、下手したら住民投票とか、いろいろ政治過程が始まると思うので、それに当然コストもかかりますし、行政コストもかかるわけで、さらに言うと地域の人というのはきちんとそれを学習して議論するという、これ時間もかかるわけで、そういう意味では大きな意味では経済的な影響もあるわけですね。

その上で合意が図れば地域統合が進むというプラスの面もあるので、そういう意味で社会・経済影響調査、社会の影響と考えた場合には、そういう政治的な話も少しきちんと政治の、特に伊藤先生いらっしゃいますので、伊藤先生などにお聞きしていただいて、そういうところもしっかり項目の中には考えていただければありがたいなというふうに思います。

感想でございました。

○増田委員長

NUMO、今の点のことも含めて検討してください。

それでは最後に小林課長からほかの残された点でお願いします。

○小林放射性廃棄物対策課長

たくさんのご意見を頂戴しましてありがとうございます。先に質問いただいたところを2つほどお返しをしたいと思います。

まずシンポジウムのアンケートですけれども、きょうは資料1でご紹介をした質問以外に、ご質問をしていることは幾つかございます。どういうきっかけで参加をしたのかというようなこと、それから今後、似たようなイベントがあった場合には参加をしたいと思うかというようなことなどを聞いているところであります。これは前回5月、6月、それから今回と、いろんな変化を我々としても分析した上で、皆さんにご提示していくということをしっかりやっていきたいなというふうに思います。

それから原子力委員会がデータについて質問があったということ、2点目でございますけれ

ども、これは私、朽山委員と一緒に行了きましたので、そのときの私なりの理解ですけれども、今、技術ワーキングのほうでは利用可能なデータというものはどういふものがあるかということをしリストアップしているところでありす。

そして、それ自身は技術ワーキングとしては精査の上で、今の、この間こちらに報告したよな形で議論がされていると。それは全て公開されているのもご案内のとおりでございますけれども、原子力委員からご発言があったのは、国の関係機関というのも、広い、つまり例えば産業総合研究所のように地質を主に調査をしているところもあれば、例えば鉱物資源に関して別の目的で調査をしたけれども、もしかしたら利用可能かもしれないと。例えばそういうよなものもあり得るので、こうしたものをつくり上げるときには文字どおり幅広いところにきちんと照会をかけて、今の日本のデータとしてはこれがしっかりしたデータセットだと言えるよなものに仕上げてくださいと、そういうご趣旨だったと理解しています。したがって何か具体的にこれが足りないとか、これが使えないとかいふご指摘ではなく、むしろ確認方法としての注意をいただいと、そういう理解でおります。

それから、ほかに頂戴しました意見は全て今回承りまして、次回に向けてそしゃくをしていきたいと思ひます。この先、きょうも含めて、今までどのような取り組みをしていけばいいのかということについてはたくさん課題をいただいと、それについてこの半年でできた部分もあるというふうに思ひますけれども、今後に向けて、特に何と何を重視してやっていくのかということ、きょうもご議論いただきまして、これまでもご議論いただいときましたので、国としてこれは責任を持ってしっかり整理をしていくということにしたいと思ひます。

ありがとうございます。

○増田委員長

ありがとうございました。

大体、時間がまいりましたので、きょうはこの程度にしたいと思ひんですが、総じて全国9カ所で2度ほど大きなシンポジウムをやって、ですから18回シンポジウムをやったということで、以前は平場に降りてやっていなかったので、確実にこの点は進捗をしてきたんだらう。それでメディアのカバーも少しずつ大きくなってきていると私は思ひています。ただ、ご承知のとおり、まだまだ国民に理解を広く求めるには時間がかかるので、一歩一歩着実に進めていく必要があるということだと思ひます。

今、科学的有望地の提示について、何人の委員の方からもお話がございました。朽山ワーキングのほうで、朽山委員を中心に非常に深掘りをしていただいとありますが、そちらはそちらで、先ほど朽山委員長がお話になっただやうに、さらに資料を整理されたり、科学者の間でも、それか

ら一般国民向けでもいろいろ活動をやられて、これは大変重要なことではありますが、それと同時に、例えばこの科学的有望地の提示のための条件もやはり議論をしておく必要も確かにあるんだろうと思います。

それときょうは、次回以降にということにしてありますが、そもそも科学的有望地の提示に向けての社会科学的な観点とはどうするかという問題がありますので、これについてまた議論をしていかなければいけないと思っています。

したがって、エネ庁やNUMOで今後検討しておいてもらいたいこと幾つかありましたんですが、そうしたことでとか、それからこのワーキングで、中身は別にしてもこういうことは議論が必要だねということはいろいろ出てきていると思いますので、国としてもこうした点について交通整理をしておいていただく必要があると同時に、我々は我々でまた次回、日程をご連絡いたしますが、このいわゆる社会科学的な観点での内容についてまた議論を深めていきたいと思っております。

それでは、きょうは以上であります。珍しく時間より少し早く終われそうなんです。次回の日程の連絡のほうをお願いします。

○小林放射性廃棄物対策課長

ありがとうございます。毎度で恐縮ですけれども、今後、調整をさせていただいて、正式にお伝えをしたいと思います。よろしくをお願いします。

○増田委員長

では、決まり次第、適宜またご連絡をいたしたいと思えます。

それでは第23回の放射性ワーキング、本日はここまでにしたいと思えます。

どうもありがとうございました。

—了—